

2019 (令和元) 年11月30日発行 編集・発行: NPO法人事務局

未来につなげたい、大切な記憶

unforgettable memories leading us forward

令和元年度通常社員総会

-2019 (令和元) 年6月16日 (日) 於サンピーチ・OKAYAMA-

正会員総数70者中、41者(委任状提出者を含む)の方にご出席いただき総会が成立している旨の報 告がされた後、議長に武久顕也副理事長が選出されました。その後、審議事項として定款の変更(理 事会の定足数等を明記するもの)が上程され、満場一致で可決されました。

総会後の講演会に先立ち、瀬戸内市で活躍中の「せとうち語りの会 うぐいす」によるオリジナル 語り-ハンセン病と療養所 人権という大切なもの-が披露されました。

講演会は90名の皆さんにお集まりいただき、元岡山県ハンセン病問題関連史料調査委員会委員長の 南智先生により 「長島は語る」をかたる~一次資料が私達に問いかけること~ と題して行われまし た。「長島は語る」編さんは長島愛生園と邑久光明園に保存されている一次資料をふんだんに取り込 んだ岡山県事業で、2009年3月に上下巻が発刊されています。

講演で南先生は「人権問題を考える時には人権侵害の実態を直視せねばならない。この実態が長島 には多く保存されている。長島両園にある一次資料は全て保存し、公開についてはハンセン病問題に 十分留意しながら行う。多くの人に知ってもらうことが文化財としての保存への第一歩だ」とお話下 さいました。質疑応答では「長島は語る」に大きく関わられた長島愛生園、邑久光明園の入所者と参 加者とのやりとりの場面もあり、充実した時間を過ごすことができました。

講演会後には同会場で懇親会が開催され、会員間の交流を深めつつ世界遺産登録に向けた決意を新 たにしました。



※「長島は語る」全編は岡山県のホームページで公開されています。 http://www.hansen-okayama.jp/comm/kataru.html



ご寄付いただいた皆様 (H31.3.19~R1.11.18)

多くの皆様からご寄付いただきました。誠にありがとうございます。

八幡智惠様 30千円 藤澤祥子様 10千円 伊藤增男様 500千円 古林海月様 6千円 匿名様 金額非公開 7件

「生-SEI-|展・新川裕子様 8,256円 本幡照夫様 10千円 釜井大資様 78千円

合計15件 2.681.759円

~長島愛生園に新たな交流拠点が誕生!~

水谷義彦様 金額非公開

本年7月に長島愛生園旧福祉課棟内(愛生園バス停前の建物)に

「喫茶さざなみハウス」がオープンしました。オーダーが入ってから挽かれるコーヒーや 週替わりのランチセット(数量限定)は絶品です。お誘い合わせの上、お立ち寄りください。



※営業日時 毎週水~日 8:00~16:00 (L015:30)

※モーニング450円 ランチセット900円 コーヒーほか400円~

※その他、軽食・季節のデザートあり。

※貸切可(応相談)

【連絡先】hibarientertainment@gmail.com

~イベントのお知らせ~ ※詳細は後日チラシをお送りします。

ユネスコ世界文化遺産登録に向けた 学術調査事業 護演会

認定NPO法人富士山世界遺産国民会議の方を 講師にお招きし、誰もが知っている富士山が世 界文化遺産に記載されるまでと現在の取り組み についてお話いただきます。

日時: 2020年2月15日(土)午後1時30分~午後3時

定員:50名 (無料 先着順・要申し込み) 会場:瀬戸内市中央公民館

(邑久町尾張465番地1 JR邑久駅から徒歩約10分)

編集後記

今回寄稿いただいた台湾在住の清家さんとはインターネット上の twitterで知り合いました。

twitterやfacebookの運用を本年1月に始めて以来、これら経由での 会員申し込みやイベントの参加、寄付の申し出が増えてきました。会 員の方の自主企画による新規会員と寄付の実績も。ありがたいことで す。自主企画への資料の送付や事務局員の派遣など、何なりとご相 談ください。

一方で11/3の映画館アンケートでは口コミでのイベント参加割合が 依然高いことも判明。広報活動に王道はありません。共感の輪が広が る事業をご提供することが大前提だと再認識しています。

「世界の記憶へ」朗読会

NHK岡山放送局 アナウンサー 望月啓太さん による文芸作品の朗読と学芸員を交えてのフ リートークを開催します。

日時: 2020年3月14日(土)午後1時30分~午後3時

定員:80名 (無料 先着順・要申し込み) 会場:岡山県立図書館デジタル情報シアター

(岡山市北区丸の内2-6-30 県庁前バス停下車)

特定非営利活動法人

ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会事務局

〒701-4501岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253番地 (国立療養所邑久光明園旧入所者自治会館内) TEL: 0869-24-8872 FAX: 0869-24-8873

email: hansen-wh.jp@aioros.ocn.ne.jp

開所日:火曜日~土曜日

閉所日:日・月曜日、祝日、振替休日、年末年始 開所時間:午前9時~午後5時

◎この会報誌の著作権は本法人に帰属しますので、無断転載はご遠慮下さい。

世界遺産登録に向けたロードマップの進捗管理を実施中!

本年3月に完成したロードマップ (2019年4月~2022年3月) に基づく学術調査等をロードマップ 委員会 (長島愛生園歴史館学芸員 田村朋久委員長) にて進めています。4月から7月に文化遺産 17、記憶遺産15の調査事項をピックアップ。文化遺産2つ、記憶遺産1つのワーキング・グループ を設けロードマップ委員と共に8月から本格的な調査等を実施しています。年度末には理事会の承認を経て本年度の調査報告書を作成し、必要に応じてロードマップの改正を行います。

文化遺産については数百ページに渡る推薦書の中で最も重要な「顕著な普遍的価値の言明」案の磨き上げを行っています。また文化庁調査官(世界遺産担当、史跡担当)から助言いただける枠組みを検討しています。記憶遺産については現在ユネスコにて進められている事業の見直しが早くとも2021年春まで継続され、新規申請の受付はそれ以降となることが判明しました。新たなマニュアルや申請書様式を分析し、候補となる歴史的記録物の選定等を調査しています。













瀬戸内市ふるさと納税型クラウドファンディング 「後世に伝えたいハンセン病の歴史」

長島両園の歴史的資料の保存(脱酸性処理)と 入所者証言映像の多言語化を目的として実施中。 10万円以上ご寄附いただいた希望者の方にはお 礼の品として陶製「長島愛生園十坪住宅貯金箱 リバイバル版」をご進呈。

更に15万円以上で地元陶芸家の安倍安人先生と 松川広己先生による数量限定プレミアム版もお 選びいただけます。

https://www.furusato-tax.jp/gcf/612



瀬戸内ほしのさざなみ映画館 -2019(令和元)年11月3日(祝) 於邑久光明園-

映画館のない瀬戸内市に一夜限りの映画館を!

瀬戸内市移住交流促進協議会(愛称「とくらす瀬戸内」)を中心とする瀬戸内市民による実行委員会に本法人も加わり、邑久光明園藪池運動場・道の駅黒井山グリーンパーク・国指定史跡寒風古窯跡群にて映画の屋外上映を、瀬戸内市中央公民館・牛窓テレモーク(旧牛窓診療所)・ゲストハウス「ねんどころ」にて屋内上映を行いました。

邑久光明園では藪池運動場に大型トラック3台を搬入し巨大スクリーン3枚を吊り下げ、昨年大ヒットした-ボヘミアン・ラブソディーを上映。上映前には邑久光明園社会交流会館学芸員の太田さんによる光明園と藪池、盲人会にかつて存在した「クローバー楽団」の解説と昭和30年代の音源紹介が行われ、300名の参加者はこの場所でこの映画が上映される意義を感じました。



フードコーナーも開設され、光明園敷地内の特別養護老人ホーム「せとの夢」さんによる天ぶらうどんなどが充実。映画とともに光明園と愛生園の入所者の皆さんにもお楽しみいただきました。 当日午後には光明園内のフィールドワークが県外参加者を含め19名で行われました。「愛生園も併せて巡るツアーを企画して欲しい」との声も寄せられました。



(撮影 松本紀子さん)

【来場者アンケート(回答数110)結果】 (居住地)瀬戸内市内36%、岡山県内56% (初来園)62% (来園契機となった広報)チラシ35%、口コミ28%、フェイスブック20%、新聞・雑誌13%

~台湾にある楽生療養院を訪れて~

正会員 清家 真弓

台湾にある公立のハンセン病療養施設「楽生院」は、台北市の隣、新北市新荘区にあります。今は施設そばにMRTという地下鉄も通り、周辺は車通りも多く、とてもにぎやかな場所です。この楽生院は、1930年、日本が台湾を統治していた時代に設立されました。日本国内同様、台湾でもハンセン病患の強制隔離が行われており、1945年に日本が敗戦して台湾が中華民国に返還された後も引き続き隔離政策は続き、最大1,000床もの病床数となりました。



台湾在住3年目の私は、今年7月半ばの週末、初めて楽生院を訪れました。(楽生院は一般の方も立ち入り・見学はできますが、入所者の方への取材などは福祉部への連絡が必要となります。)私が訪問した日の気温は35度と高く、青空が眩しい夏日。天気も良く気持ちのいい日でしたが、夏に訪れたことを後悔する程、楽生院の敷地内はアップダウンの激しい道が続いていました。

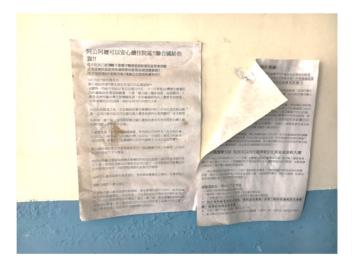


になりました。時が止まったままの部屋、また2002年で止まっているカレンダーもありました。この 楽生院は、2002年より地下鉄工事のため施設を取り壊し、入所者の方たちは新しい医療施設への転居 を迫られていました。しかし、この転居を受け入れず、これまで通りこちらで生活したいと戦った方 が10名ほど、今も一般舎に住まわれています。

(右下の張り紙は、地下鉄工事開始前に入所者の方に転居を告知したもの。)

(次項へ続く)





(前項からの続き)



なので、高齢の方が台湾語を話し、若者が台湾語で答えるととても喜んでもらえます。さらに、台湾に は原住民族が16部族住んでおり、原住民語も16語あります。電車や地下鉄に乗っていると、駅名などは 「中国語」「台湾語」「原住民語」でアナウンスがあるので、聞いていても面白いです。

そしてこちらの写真の作品は、散歩中に出会った阿公が作成したもの。楽生院の伝統的な住宅の模型です。一緒に写っている写真は、日本国内のハンセン病療養施設の入所者の方たちと訪れた高野山での集合写真とのことでした。

今は政府から医療や生活面を守られているので、安心して生活できると話されていた阿公。阿公が地下鉄建設の際に反対運動に参加し、今もこの一般舎での生活を続けているのは、かつては「隔離」されたこの場所が、今では住み慣れた我が家になっており、これからもこの生活を守っていきたかったのだと感じました。日本のハンセン病療養施設でも、こちらの楽生院でも入所者の高齢化が進み、歴史を語り継ぐ人がいなくなることはとても寂しいです。そのため、私たちが「知る」「伝える」「忘れない」ことが大切だと思います。

私は高校2年生の時に長島愛生園を初めて訪れ、それから15年交流を持ち続けています。現在、縁があって台湾に移住し、台湾でのハンセン病の歴史に触れたり、療養所に訪問する機会ができたことを嬉しく思います。また今回会報誌へ寄稿させていただき、ありがとうございました。国立ハンセン病療養施設が世界文化遺産に登録されるよう、これからも微力ながらお役に立てればと思います。

※会員の皆さんからの寄稿を募集しています。詳しくはお気軽に事務局までお問い合わせください。



